

「国語の授業を楽しく」

令和5年度
No.7号
6月15日

5年生の研究授業おつかれさまでした。研究討議の中で話題にあがった「音読」について、紹介してほしいという声を頂いたので、今回は音読会です。こういった要望を頂くのはとても嬉しいことです。ぜひ、何かあればご相談ください。

○「音読」の目的について

本時の中で音読をさせる目的の一つとして、「本時で扱う内容の確認」があります。先生たちも多くはこの目的で設定されますね。内容を正確に理解・把握するためには「**すらすら読めること**」が必要となってきます。さまざまな方法がありますがその方法の良さや注意点を挙げていきます。

方法	良さ	注意点
一斉音読	・全員で声をそろえて読むことで一定のペースで読むことができる ・そろえるために周りの声を聞く力が養われる ・「声をそろえることは心をそろえること」で一体感が生まれる	・「全体のペース」があるためついていけない子が出てくる ・「個人の読み方」が損なわれる
指名音読	・聞く側の子どもたちは「見ると聞く」で内容を確認できる	・「声を出す」子が限られる
「。読み」 「、。読み」	・交代で読むことによって「見ると聞く」と声に出す」ことで内容が確認できる ・きれいにつながると達成感を得られる	・集中力が持続せず、途中で途切れることがある。 ・声を出すことに抵抗がある児童に配慮が必要
一人読み	・自分のペースで理解しながら読める。 ・「個人の読み方」が生まれやすい	・個々に読む時間が異なるため全体交流の時間の設定に工夫が必要

どの方法にするかは、「**本時の授業課題に適しているか**」と「**学級の子どもたちの実態**」に合わせて設定していくことが大切だと考えます。音読は自然には上達しませんので、育てていく必要があります。「学期の始まりだからこの方法にしよう」「この学習課題にはこれがいいかな」など、様々な方法を試してみてください。

また、「内容を確認するために読む」場合は本時の学習課題を確認してから、「**課題に対して考えを作るために内容を確認する**」という意識を子どもたちが持てるように指導していくと、目的を持った音読になっていきます。

○「考える音読」について

「すらすら読むこと(すらすら型)」以外にもたくさんの音読の方法があります。音読を通して子どもたちの「ズレ」を表現させ学習課題に設定したり、理解度を音読によって確認したりする方法があります。「すらすら型」がベースとなつての発展型といえます。

☆「イメージ型」の音読

「イメージ」型とは、人物の心情や文章の内容を思い浮かべながら読む音読です。そうすることで「多様な解釈を生み出す音読」や「解釈のズレを顕在化する音読」になります。

・「つぶやき読み」

一文一文に対して子どもたちが感想や解釈をつぶやきます。「なるほど!」「どういうこと?」「本当にそうなの?」「それは～ということだね」など一人一人の解釈を引き起こし、多様な広がりが生まれることになります。

・「ここ・ここ読み」

「人物の心情がわかる表現で『ここ・ここ』と言いましょう」と指示することで一人一人の解釈を表現させます。そこにズレが生まれることで「本当にその表現でいいのかな」という検討する授業へと展開させていくことができます。

☆「論理型」の音読

この方法は「関係を考えながら読む」ことにつながります。

・はじめの心情と終わりの心情の変化を考えながら読む

・情景描写と人物の心情の関係を考えながら読む

・問いと答えの関係を考えながら読む

・事例とまとめとの関係を考えながら読む

こういった目的を持たせて読ませることは先生たちも指示されていることでしょう。活動としては「○○のところは一人で読んで、○○のところは全員で読む」と設定すると、「一人で読む部分」と「全員で読む部分」がバラバラになります。そこで生まれるズレを、検討する授業へ展開することができます。その後、話し合いによってズレが解決すれば全員が一致して読むことになります。その時に再びずれている子どもがいれば、理解が不足していることを見取れ、支援することができます。

「すらすら型」によって「文章を正確に読める」ようにすることはもちろん、「イメージ型」によって「文章の内容を理解」した上で、「論理型」によって「論理的な関係を捉えて読める」ことに発展させていくことができます。

また、「物語文の授業を音読で展開する」ことも可能です。子どもたちそれぞれの読みを「どうしてそう読んだの?」と問うことで子どもたちの解釈を引き出し、表現と読解をつなぐという方法です。「音読」には本当に様々な方法があります。授業のねらいや子どもたちの実態に合わせて設定してみてください。

参考文献 全員参加で楽しい「考える音読」の授業&音読カード 桂 聖 編著 「考える音読」の会 著(2019)

「国語の授業を楽しく」

令和5年度
No.8号
7月11日

1学期の研究授業、ありがとうございました。4学年が短い期間に行ったことで、先生方の授業理解と学校としての方向性が共有できてきたのではないかと感じています。今回は4学年の研究授業と正木先生の助言を大まかにまとめてみます。7月25日の研修に向けて、振り返る視点になれば幸いです。

言語活動

- Aタイプ 学習のまとめとして自分の考えを書く
Bタイプ 筆者の書きぶりから、自分で説明文を書く



☆3年生 「こまを楽しむ」
言語活動 Bタイプ 「〇〇を楽しむを書こう」
主な学習活動 「書き方のコツを考えよう」
授業の仕掛け 「エラーモデル」

☆5年生 「言葉の意味が分かること」
言語活動 Aタイプ 「批評文を書こう」
主な学習活動 「わからないところを探そう」
授業の仕掛け 「レーダーチャート」

☆4年生 「アップとルーズで伝える」
言語活動 Aタイプ 「作品の紹介文」
主な学習活動 「書きぶりの工夫を見つけよう」
授業の仕掛け 「重ね読み」

☆2年生 「どうぶつ園のじゅうい」
言語活動 Aタイプ 「筆者に手紙を書こう」
主な学習活動 「筆者の言動を想像しよう」
授業の仕掛け 「一番大変な仕事はどれだろう？」



R5 言語活動 学年別一覧表

	第1教材	第2教材	第3教材	第4教材	
1年	くちばし ☆「くちばしクイズ」を作ろう(A)	うみのかくれんぼ	じどう車くらべ	どうぶつえんの赤ちゃん	
2年	たんぼのちえ ☆「〇〇のちえ」を書く(B)	どうぶつ園のじゅうい ☆筆者への手紙を書こう(A)	馬のおもちの作り方	おにごっこ	
3年	こまを楽しむ ☆「〇〇を楽しむ」を書く(B)	(ポスターを読もう)	すがたをかえる大豆	ありの行列	
4年	アップとルーズで伝える ☆「作品を比べる」レポート(A)	(パンフレットを読もう)	世界にほこる和紙	ウナギのなぞを追って	
5年	言葉の意味が分かること ☆作品の批評文を書く(A)	(新聞を読もう)	固有種が教えてくれること	想像力のスイッチを入れよう	
6年	時計の時間と心の時間 ☆筆者に意見文を書く(A)	利用案内を読もう	「鳥獣戯画」を読む	メディアと人間社会 大切な人と深くつながるために	今、あなたに考えてほしいこと

正木先生の助言集

- ・子どもの心に火をつける学習活動の設定
- ・学級全体で乗り越えようとする学習課題の設定
- ・教師≠レフリー(授業では「ジャッジ」ではなく「コントロール」「マネジメント」)
- ・「わからないベース」の授業、「読み手」と「書き手」の立場
- ・「指導言」について
- ・「なんのため」発問から、「見つける→探す→気づく」学習へ
- ・めあては「解決課題?」「学習目標?」
- ・教材の特性を考える
- ・ゆさぶり発問の三要素「限定」「比較」「否定」

※ご自身でも「研究授業のまとめ」や「正木先生のスライド資料」を見返して、一度ゆっくり振り返ってみてください。

「国語の授業を楽しく」

令和5年度
No.9号
8月31日

いよいよ2学期が始まりましたね。8月29日の国語研修お疲れさまでした。指導主事の先生も八尾小学校の先生方の討議の熱さに感心されていました。1学期に引き続き、子どもたちの国語力向上に向けて頑張っていきましょう。

今回は研修の内容をまとめさせていただきます。疑問点があれば個別に声をかけていただくか、研修を開きますのでよろしくお願いします。

今年度研究テーマ

「単元をデザインし、子どもたちの読みをつなぎ深める授業のあり方～考えの形成をめざした授業づくり～」

○各学年 授業案 単元のゴール・言語活動

1年生「じどう車ずかんをつくろう」

3年生「すがたをかえる〇〇を書こう」

5年生「統計資料を用いて意見文を書こう」

各学年とも言語活動は「書き手の立場で書く」ことを設定しています。そのために教材文を読み進め、考えの形成を促していく展開となります。
(各学年の指導案を再度確認してみてください。)

○学習指導要領

【読むこと】

・構造と内容の把握(説明的な文章)

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。	ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。	ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。

・精査・解釈

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。	ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。	ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

・考えの形成

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

【書くこと】

・考えの形成

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。	ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

改めて、学習指導要領を載せました。府教育センター指導主事の先生からも各学年の指導事項や目標に沿って授業を進めていくことの重要性を研修頂きました。そうすることで、評価も明確になり、「指導と評価の一体化」に繋がっていきます。各学年の指導案を見て、単元計画や授業内容に気づきがあった場合は、各学年にアドバイスください。また、その際学年からも考えを話すことで、授業の意図が明確になっていき、新たな気づきが生まれることに繋がります。

〈府教育センター指導主事からの助言〉

【評価規準の作成のポイント】

・「指導事項の確認」→「目標と言語活動の設定」→「評価規準の設定」→「指導と評価の決定」→「評価の実際と手立ての想定」の順番で単元を作成してしていきましょう。(別紙資料あります)

【国語が好きな児童】

・「先生方が子どもたちにどのような声掛けをされましたか」と尋ねられました。先生方もたくさん子どもたちが前向きに取り組めるような工夫をされていますが、2学期もより一層お願いします。なにより、先生方が楽しみながら授業をすることで子どもたちにも伝わると思います。硬くならずマイルでいきましょう！

「国語の授業を楽しく」

令和5年度
No.10号
10月17日

いよいよ、11月1日に向けて公開学年の先行授業が始まっています。それぞれの授業予定を載せますので、お忙しい中だとは思いますが、授業参観をして頂き、みんなでよりよい授業にしていきたいと思います。

今年度研究テーマ

「単元をデザインし、子どもたちの読みをつなぎ深める授業のあり方
～考えの形成をめざした授業づくり～」

○各学年 授業案 単元のゴール・言語活動

1年生「じどう車ずかんをつくろう」

3年生「すがたをかえる〇〇を書こう」

5年生「統計資料を用いて意見文を書こう」

○階段掲示物

5年生が小学生テストで課題にあがった「四字熟語」「ことわざ・慣用句」の掲示物を作成してくれました。子どもたちに自然と目に入る形で学んでいく、学力につながる方法の一つですね。先生方も子どもたちの語彙が増えるように様々な取り組みありがとうございます。



☆1・3・5年生授業予定

月	火	水	木	金
16 ☆1・3・5年で 指導案検討、確認	17	18 (2h)1-4① ☆1・3・5年で 指導案検討、確認	19 (3h)1-4② (5h)1-1①	20 (2h)1-4③ (4h)1-3② (6h)5-1①
23 (2h)1-4④ 5-1② (4h)3-1① (5h)1-3③	24 (3h)1-4⑤ (4h)1-3④ (5h)3-1② 3-2①	25 (1h)3-2② (2h)1-4⑥ 3-1③ 5-1③ (4h)1-3⑤	26 (1h)1-3⑥ (2h)3-1④ 5-1④ (3h)1-4⑦ 5-2① 3-2③	27 (1h)3-1⑤ (2h)1-4⑧ 3-2④ (4h)1-3⑦ 5-2② (6h)5-1⑤
30 (2h)1-4⑨ 5-1⑥ 3-2⑤ (4h)3-1⑥ (5h)1-3⑧	31 (2h)5-2③ (3h)1-4⑩ (4h)1-3⑨ (5h)3-1⑦ 3-2⑥	11/1 公開当日		

○2年生 「馬のおもちゃの作り方」

4年生 「世界にほこる和紙」

6年生 「『鳥獣戯画』を読む」

そろそろ単元が始まるころだと思います。引き続き、「言語活動の設定」をはじめに行い、子どもたちと共有してから、読み取りに入るようにしてください。単元の最後にむけて授業をデザインしていく、今年度の研究テーマに沿った授業づくりをお願いします。

今年度研究テーマ

「単元をデザインし、子どもたちの読みをつなぎ深める授業のあり方

～考えの形成をめざした授業づくり～